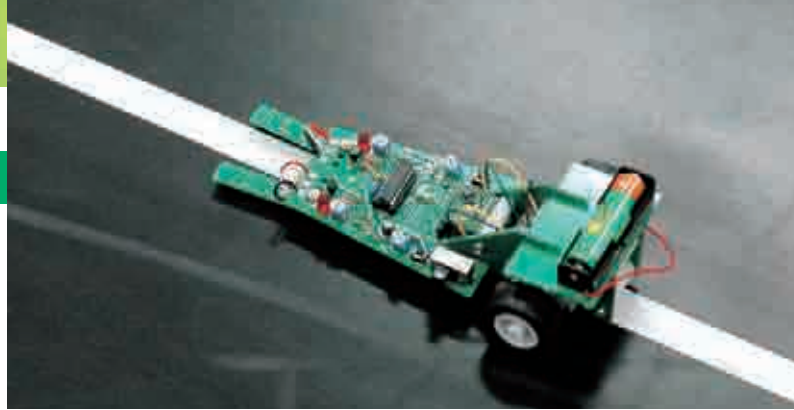


待望の組み立てキットも登場

ろぼ

すぶりんと

Robo Sprint に 挑戦してみよう!



まつばら たくや / (有)ニコ
松原 拓也

「ロボスプリント (Robo Sprint)」競技とはニューテクノロジー振興財団の企画した自律型ロボットによる新しいライトレース競技だ。この競技の特徴は簡単に参加できる「初心者向け」であること、そして、「ローカル競技」として全国各地で開催できること、ネットで交流をはかれることなどがある。競技内容を簡単に説明すると、白線の引かれた直線コースにロボット (ロボスプリントと呼ぶ) が左右のどちらからか進入し、そのまままっすぐ進んで自動的にゴールするというもの。つまり、ロボットによる短距離走である。

競技はローカルに開催

ロボスプリント競技は 2005 年に公式 web サイトにて情報を公開。第 26 回の全日本マイクロマウス大会では競技の合間にデモンストレーションが行われた。その後、2006 年 6 月の「第 1 回ロボスプリント狭山大会」から始まり、2006 年 11 月の「ロボスプリント長井大会」、2007 年 3 月の「ロボスプリント TEPIA 大会」、2007 年 8 月の「ロボスプリント狭山市立博物館大会 2007」が行われている。これらの大会はそれぞれで主催が違っていた



公式 web サイト (<http://www.robosprint.org/>) よりコースの詳細。直線なので「廊下にもコースを設置できる」というメリットがある。



スタート地点 (スターティングゾーン) からロボットをスタート。白線を探して斜めに突入。

り、ロボットの規定も違っているが、こうした競技スタイルの幅広さもロボスプリントの特徴である。

ロボスプリント発祥の地となったのが、埼玉県立狭山工業高等学校 (以下、狭山工業高校) だ。狭山工業高校の電子機械科は授業の一環として、全日本マイクロマウス大会のロボットレース競技や全日本ロボット相撲大会に数多く出場している。それに加えて現在、取り組みを始めているのがロボスプリントである。

狭山工業高校・電子機械科の畠山和昭先生にお話をうかがってみた。まず、ロボスプリント誕生の経緯についてだが、競技の概要とルールはマイクロマウスの実行委員でもある明星大学の飯島純一教授が中心となって作りあげたものらしい。詳細は不明だが、今から 5 年前、中高生を対象としたライトレース競技が企画されたが、当時から既に「他のロボット競技は参加者のレベルが高くて敷居が高い」「初心者でもとっつきやすいものがないか」などの声があったようだ。

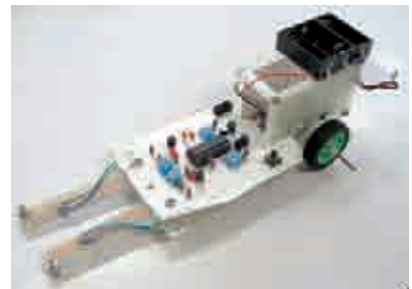
初心者がロボット競技を始めるにあたっ



ゴール地点 (ブレーキングゾーン) ではロボットを自動的に停止させなければいけない。止まれないと失格になる。

て必要となってきたのが専用の組み立てキットである。これをうけてニューテクノロジー振興財団はバンダイロボット研究所の技術協力によってキットを開発。キットの試作品は「第 1 回ロボスプリント狭山大会」「ロボスプリント狭山市立博物館大会 2007」に評価用として提供され、大会で参加者たちが実際に組み立てた。大会には各学校の先生や学生たち (中学生～大学生まで) が参加した。

こうして大勢の手によって評価を重ねられたキットだが、それが遂に発売されるに至ったわけである。



「第 1 回ロボスプリント狭山大会」で使用したキットの試作品。ユニバーサル基板を使った苦心作。



狭山工業高校電子機械科の皆さん。「狭山市立博物館大会 2007」では選手としてだけでなくスタッフとしても活躍した。